【短報】福岡県からのホソクロマメゲンゴロウの採集記録

ゲンゴロウ科のホソクロマメゲンゴロウ *Platambus optatus* (Sharp, 1884) は，主に山間の落ち葉のたまった染み出し水の水たまりなどに生息し，本州，四国，九州から報告されている（記野・長谷川，2001；森・北山，2002）．しかしながら九州における記録は少なく，これまでに佐賀県の脊振山地（記野・長谷川，2001），熊本県の南小国町と菊池渓谷（熊本県希少野生動植物検討委員会，2009），および宮崎県のえびの市（宮崎県版レッドデータブック改定検討委員会，2010）から少数の採集例があるのみである．筆者はこれまでに記録がない福岡県において本種を採集したので，ここに報告する．

図1．那珂川町産ホソクロマメゲンゴロウ．

図2．雄交尾器．

図3．採集した環境．

5♂♂3♀♀，福岡県那珂川町五ヶ山（標高約 550 m），4．VI．2015，筆者採集・保管

採集された個体は体型が比較的扁平であること，後胸腹板翼部が広いこと，および雄交尾器中央片の先端が鈍く丸いことから，ホソクロマメゲンゴロウの形態的特徴と一致した（図 1，2）．本種は地域により雌上翅の光沢に変異があることが知られているが（森・北山，2002），今回採集されたすべての雌の上翅にはほとんど光沢がなかった．

採集場所は舗装された林道沿いの三面コンクリートの側溝で，多くの落ち葉が堆積しており，水は冷たく清澄でごく緩やかな流れがあった（図 3）．その他の水生甲虫類はみられず，両生類のアカハライモリとトノサマガエルが同所的にみられた．

福岡県ではこれまでに 41 種のゲンゴロウ科が記録されているが，本種を含むクロマメゲンゴロウ類の記録はない（井上・中島，2009；中島・井上，2012；北九州高校魚部，2014）．今回採集した地域は過去に本種の採集記録がある佐賀県の脊振山地に連なる山間部であり，この一帯には広く生息しているものと考えられる．

九州の既知産地では本種の生息環境の悪化が続いているとされ，熊本県では絶滅危惧 IA 類に，宮崎県では絶滅危惧 II 類に選定されている．そのため，福岡県を含む九州北部地域においても絶滅が危惧される状況にある可能性が考えられ，その生息環境や生活史に関する情報の蓄積が望まれる．

末筆ながら，採集地周辺の環境についてご教示いただいた岩崎朝生氏，宮崎県での状況をご教示いただいた岩切康二氏にお礼申し上げる．

引用文献

井上大輔・中島　淳，2009．福岡県の水生昆虫図鑑，196 pp．株式会社マツモト，北九州．

記野直人・長谷川　洋，2001．日本産クロマメゲンゴロウ類の分布．甲虫ニュース，(134)：21–25．

北九州高等学校魚部，2014．響灘ビオトープの水辺の生きもの，80 pp．株式会社マツモト，北九州．

熊本県希少野生動植物検討委員会，2009．改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物 - レッドデータブックくまもと 2009-．熊本県，熊本．

宮崎県版レッドデータブック改定検討委員会，2010．改訂・宮崎県版レッドデータブック宮崎県の保護上重要な野生生物．宮崎県，宮崎．

森　正人・北山　昭，2002．改訂版図説日本のゲンゴロウ，231 pp．文一総合出版，東京．

中島　淳・井上大輔，2012．福岡県におけるヤギマルケシゲンゴロウの採集記録．ホシザキグリーン財団研究報告，15：182．

（中島　淳　福岡県保健環境研究所）